

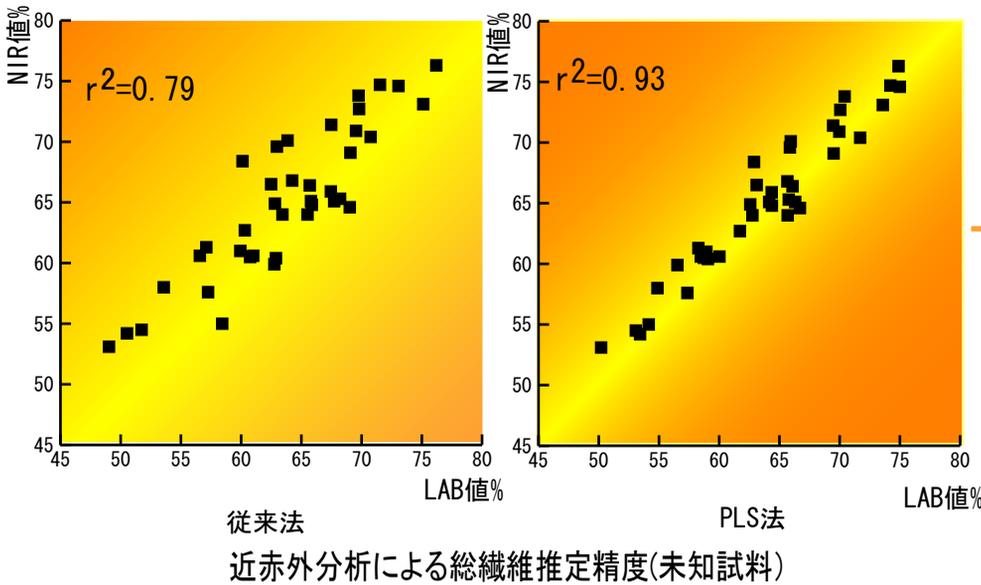
飼料分析における近赤外分析用新しい検量線の作成

飼料分析サービスでは近赤外分析計を用いて成分の推定がおこなわれています。草地飼料部門では近赤外分析計による成分推定のために精度の高い検量線の作成を行っています。それらの検量線は飼料分析センターの近赤外分析計に移設して使われています。ここでは検量線の作成・移設条件を整理しました。

開発された技術

1) 新しい検量線の作成

近赤外分析用に開発された解析手法を用いることで成分の推定精度が向上。総繊維のほか7成分について検量線を作成（CP, ADF, NDF, Ob, 粗脂肪）。

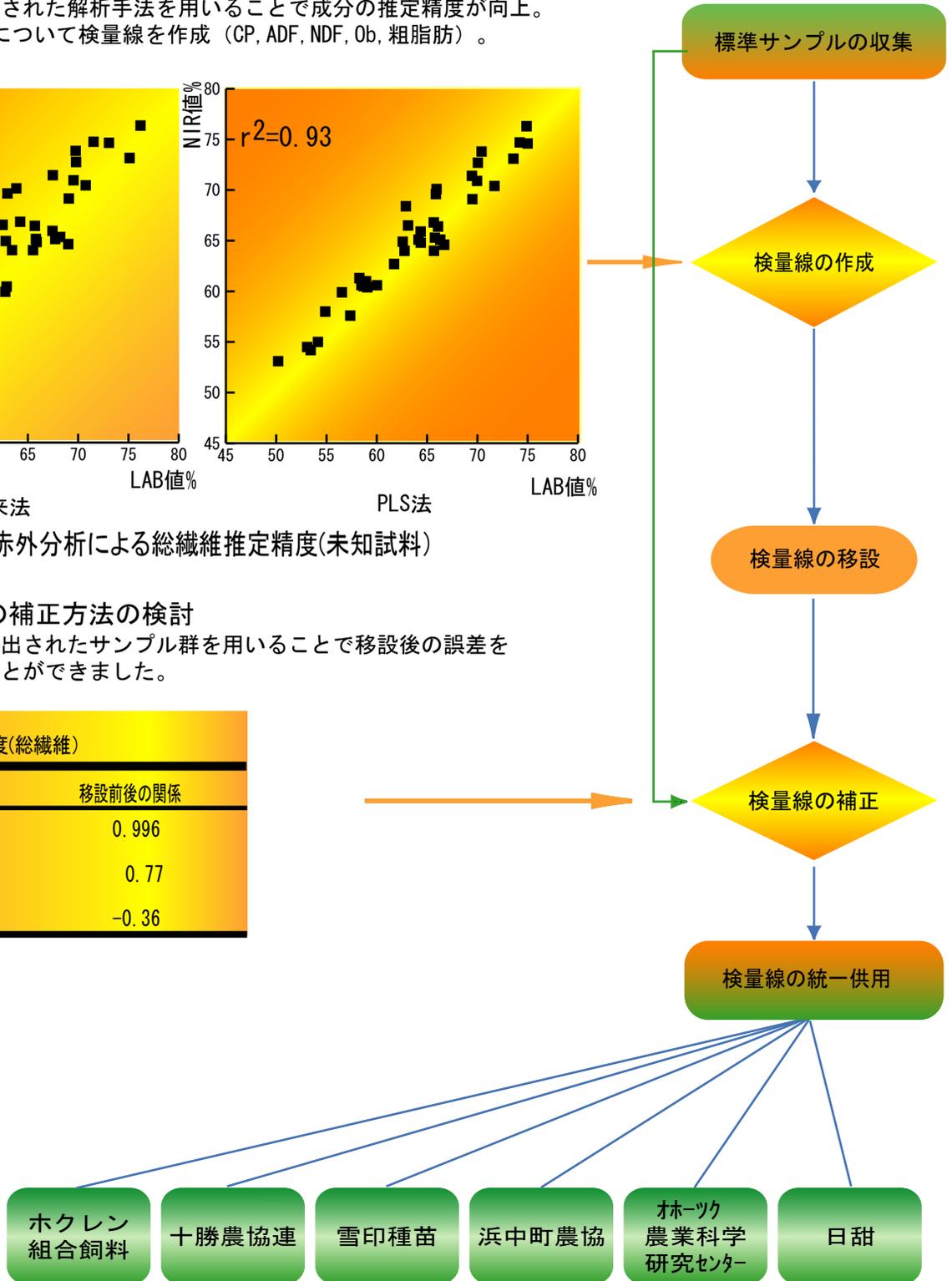


2) 検量線移設時の補正方法の検討

標準サンプルから抽出されたサンプル群を用いることで移設後の誤差を最小限にとどめることができました。

補正後検量線の精度(総繊維)	
項目	移設前後の関係
r^2	0.996
SDP	0.77
Bias	-0.36

検量線作成から移設統一供用までのフロー



これらの成果は道内の飼料分析センター6機関で統一して使用されています。